秋田県立ゆり支援学校　学校運営協議会

YCS【ゆりコミュニティ・スクール】通信

第１号　令和４年６月１７日発行

本校が学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を設置して５年目になりました。

コミュニティ・スクールでは、学校と地域住民、保護者等が力を合わせて学校の運営に取り組み、共に子どもたちを育み、共生社会の実現を目的としています。昨年度、本校では「子どもたちの自立と社会参加のために必要な力と学校の役割」をテーマに協議を行いました。そこで、委員のみなさんからたくさん御意見をいただきました。また、地域の方たちと協議などを通して活発な意見交換をし、いただいた御意見を教育活動に反映しています。

今年度、新しい委員の方々３名をお迎えし、第１回学校運営協議会が本校を会場に実施しました。委員の皆様には、本校児童生徒の学習の様子を直接ご覧頂き、その後の協議では今年度の学校運営方針の承認、それについてのご提案や助言等をいただいております。今号では、その様子を簡潔にお知らせいたします。

構成メンバーの紹介

◎学校運営協議会委員　（〇印は新任）

遠藤千代子	氏	（由利本荘市健康福祉部福祉支援課長兼福祉事務所長）
尾留川　等	氏	（つるまい福祉会　水林新生園施設長）
〇佐藤宇右エ門	氏	（本荘公共職業安定所　所長）
〇森井　勝	氏	（由利本荘地域生活支援センター　所長）
佐々木紀子	氏	（由利本荘市教育委員会学校教育課　指導主事兼学校教育班長）
大場ひろみ	氏	（文化交流館カダーレ　館長）
安倍　武義	氏	（元本荘北中学校長）
増田　良	氏	（にかほ市教育委員会教育研究所　指導主事）
〇大越雄一郎	氏	（由利本荘青年会議所　理事長）
鷹島　直子	氏	（障がい者支援事業所「逢い」サービス管理責任者）
小石　隆	氏	（浜ノ町町内会　会長）
古池　正子	氏	（学校後援会幹事）
細矢　朋明	氏	（ゆり支援学校ＰＴＡ会長）

☆本校職員

校　長	髙橋　譲	教　頭	高田屋陽子
教　頭	時田　航	道川分教室教頭	佐々木朋広
事務長	遠藤昭二郎	小学部主事	畠山　千恵
中学部主事	菊地　正紀	高等部主事	加藤　俊和
主任寄宿舎指導員	佐藤菜穂子	進路指導主事	三浦　智己
地域支援部主任	髙橋　直志	総務部主任	堀井　千秋
小学部副主事	長谷川絵美子	中学部副主事	高橋　直子
高等部副主事	大庭せい子（ＣＳ担当）		

全校の授業参観

学校経営説明･承認

意見や感想を交換

話合いの内容

◇会長、副会長の選出　・事務局一任により　会長　安倍　武義　氏　副会長　尾留川　等　氏

◇学校経営説明（髙橋譲　校長）

・本校は、平成３０年度から５年間の教育プランを立てて行ってきた。この５年目を受けて、学校の経営方針を出している。経営方針については、自立と社会参加ということで、卒業後の生活につながるところを目指していく。そのために明るく豊かな心をもつということを大きな目標としている。
・基本方針としては、学校でできることの他、地域と学校との交流を積極的に行って、地域での理解を得ること、教職員も切磋琢磨し育っていくことを掲げている。
・重点事項は、地域との連携による社会参加の基盤作りというところを大きく取り上げている。障害者の生涯学習というところで、卒業後は県の事業などでも様々な取組があるが、在学中にどう取り組むかが課題である。社会参加ということで、例えば今あるサークル活動（手芸サークルなど）に入っていけるようなチャンスをつくりたい。指導者に来校してもらい、つながっていくような取組もしたい。また、福祉エリア全体が、広域の避難地域になっていくのではないか。エリアとしての防災訓練などが行えるとよい。
・道川分教室は、今年度で閉室する。来年度は中学部の在籍１名のみとなる。きらり支援学校に移管し、体制も変わるが、在籍している１名の指導体制は現状を維持できるようにしていきたい。重度心身障害児への教育の成果をまとめて、他校の児童にも生かせるよう、情報発信していきたい。
教育プランの立案に際して、こんな学校になってほしいなど、この協議会でも提言いただきたい。

◇寄せられたご意見（抜粋）

・今年１月、Ｗリーグ女子バスケットボールアランマーレの試合のハーフタイムで、昨年度の高等部３年生と由利高校の生徒と共演し民謡や太鼓を発表し、地域とともに活動する姿が見られた。また、苗を育て、子吉川の運動等市内の美化を頑張っている。学校で頑張っているのに地域はどうかと、少し反省するところもある。
・「逢い」さんの方で、余暇活動をしてもらっている。平日はいいが、土日に行くところがないということがある。仕事、訓練として行く場所があっても、趣味で行く場所がない。卒業後の生活を豊かにするために、趣味の場に行くことが重要。趣味をもち、外に出て気分転換をするということが次の支援につながるということを感じている。
・「逢い」では、年４、５回程度地域の希望者を募って、調理活動などを行っている。参加するメンバーはいつも同じだが、楽しみにしてくれている。つどいの家やくるみの里などでも余暇活動支援をしている。案内は支援学校にも出したが、参加者は２名程度だった。興味のもてる活動内容を考えたい。
・カダーレでは今年のテーマとして、地域の皆様と一緒に様々なことをやりたいと思っている。「逢い」さんも仕事で来所しても、カダーレをしっかり見たことがないとのことだったので、見学してもらったり、発表会で使ったりしてほしい。
・秋田市では、であいのコンサートがある。障害のある人もない人も一緒につくるコンサートだが、そういうのがカダーレでできるとよいと思った。
・学校在学中は、コロニーさんから案内をもらって参加するということができたが、卒業すると自分から意識して探さないと、行事が見当たらない。一般の習い事の教室は、こちらが気後れして入っていけない。迷惑をかけるのではないかと案じてしまう。在学中から交流があって、下準備があってやっていけるとよい。幸い、学校を通せば交流しやすい。社会人になってからでは難しいと思う。
・ヤフーニュースのコラムを見た。地域の学校に通う自閉症の子どもの親の話だった。話し掛けられても子どもが答えられないので、いつも「うちの子は内気なもので」と答えていたが、横断歩道でボランティアをしている地域のおじいさんに声を掛けられて「実は自閉症です」と意を決して話した。という話だった。障害がある子どもだと伝えた途端にちょっと違う目で見られるんじゃないか、という不安な気持ちは自分もよく分かる。障害をもつ子の親としては、勇気のいることだ。大人が感じるより、障害のあるなしに関わらず、子ども同士の壁はあまりない。同じ世代の交流をたくさんしてほしい。これまでもやってもらってるが、障害に対する理解教育を行ってほしい。お互いを知れば、付き合い方も分かる。